

33 オとゴのこと

食べもの飲みものに、よくオがつく。たとえばオニギリ、オ茶。ゴがつくものもある、たとえばゴハン(飯)。オがつくものあつまれ。

A:なぜゴ茶とかオ飯とはいわないの?

B:オは和語につき、ゴは漢語につくのが普通だけど例外もある。時代によってちがいがあろう。

C:オ電話、オ料理、オ洗濯……

A:カタカナ語には、オもゴもつきにくいとおもう。オビールなんか特別だろう。

B:『源氏』の出だしは「インドウレノオフォントキニカ」というそう。オフォがオになったらしい。ゴの方は漢字の御〔奈良時代の発音 njio ンギョ?〕からきているらしい。

C:赤ちゃんのメ、テ、ミミなど、かわいいしるしで、オメメ、オテテ、オミミなんていうね。

《オは名詞のまえだけでなく、動詞連用形の中止(a)㊦に表がある)が名詞化して「オ書キ・クダサイ、オ食べ・ナサイ」など、よくつかわれるから注意して。ただし、1拍の動詞語幹では使わないようだ?、オン礼とかオン年30とかは話しことばでは使えないな。バカ丁寧は無礼?》

A:さきほどの中止形(a)の名詞化は大事だと思う。「食べる、見る、習いに、取りに……」など非常に便利だから。

《オ、ゴは単語の頭につくから接頭辞と言う。接頭語といわない方がよい。語はドイツ語や単語の時にかぎった方がよい》

34 モモタロおどり?

岡山駅東口に市内電車が走っている。その通りには Momotaroodori と書かれた鉄柱が立っている。一瞬モモタロ踊り、なにこれ? と。それなら Momotaroo oodori と書くべきだ。外国人に読ませようというのか、がっかりだ。Korakuen dori(鳥の連濁か)もある。

中国語を母語とする人びとにとって、ニホン語の発音で、つまづくのは、まず長母音である。「お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん」など母音つづきのところ /-a ʔa, -o ʔo, -i ʔi, -e ʔe/ を2拍で、はっきり発音できるように練習しなければ、いけない。Ku ʔuki「空気」ももちろん。教科書を教えるな!

拍というのは(時間がひとしいとされる長さの単位)で、和歌の5・7・5・7・7は、まさに5拍と7拍でできている。音だけをあらわす万葉仮名で書かれたものは漢字31字でできているものがおおい(巻14など)。

たとえば、巻20の4490番の歌(岩波文庫、『白文萬葉集』、『新訓万葉集』)

安良多未能 等之由伎我敵理 波流多多婆
末豆和我夜度爾 宇具比須波奈家
あらたまの 年行き還り 春立たば
まづわが宿に うぐいすは鳴け(大伴家持)

ケーキは /ke ʔeki/, コーヒーは /koohi ʔi/, 家へは /ie ʔe/, ではっきり拍を意識して発音する。

「里親」と「砂糖屋」は同音異義語で /satooya/ です。/……/ は音素記号。

◎短歌を印刷するときは5・7・5のリズムを大事にしてください。行をかえるときは5か7のあたまで!

35 音節から拍へ

中国語(北方漢語)では、たとえば中国という漢字の発音は zhongguo チョクオのようです。チョンが1音節、クオも1音節で、この単語は2音節。ニホン語で「パン食った」はどうか。「パン」は2拍、「食った」は[kutta]で3拍。ちがいますね。声に出してみる。

音節は「きこえ」の単位で、拍は「長さ」の単位。この切りかえが大切です。アイウエオのうちで一番遠くに音波がとどくのはオです。実験してください、山のむこうと話をするとき。だから zhongguo のうちで下線のoに「きこえ」の山がある。山が2つだからこの単語は2音節語。「パン食った」は、2拍の単語と3拍の単語でできている。

ここまで、いい？ 質問してね。

A：パンは2拍、イギリス語だと bread ブレッドで1音節、ロシア語も hleb フレーブで1音節、どうしてニホン語はコマギレなの？

B：コマギレ？ そうか、50音図など機関銃みたいといった外人がいたけど、拍というのは音のごく短い単位♪(1/5～1/12秒)なんだね。

C：ニホン語の音の数は、すくないの？

《そうだ、すくない方だよ。やさしい発音とっていいだろう。注意するのは、母音がならぶとき、つまる音(ッ)、はねる音(ン)、子音の有声・無声と有気・無気のちがい。イギリス語の1音節には strengths(強さ)や、ロシア語の1音節 vzglyad(ヴズグリャード)(見方)なんかあるけど、ニホン人には、とてもむずかしい発音だ》

36 拍の数

㊦に「50音図」という名の表には、約百拍の文字がならんでいる、と書きました。よく表を見てみましょう。

区別すべき拍を数えてみます。ア行～マ行 $5 \times 7 = 35$ 、ヤ行3、ラ行5、ワ行1(ワはオとおなじ拍)、ン1、ガ行～パ行 $5 \times 5 = 25$ (ただしジとヂ、ズとヅは、おなじ拍だから $-2 = 23$)、キャ行～ピャ行 $3 \times 12 = 36$ (ただしジャ行とチャ行は、おなじ拍だから $-3 = 33$)、以上の合計101拍。

この表にないものを加えます:小さい(ッ)、シャ行のシェ(例シェパード)、チャ行のチェ(例チェス)、ジャ行のジェ(例ジェーアール)、ヤ行のイエ(例イエロー)、ファ行のファ、フィ、フェ、フォ(例ファイト、フィギャー、フェリー、フォークダンス)、ワ行のウイ、ウエ、ウォ(例ウィーク、スポーツウェア、ウォーター)、夕行のティ、トウ(例パーティ、トゥーダウン)、ダ行のデイ、ドウ、デュ(例ディーゼル、デュエット)、ツァ行のツァ、ツエ、ツォ(例オトツツァン、ツェツェバエ、ゴツツォオ)。

教室にはってある表と実際の発音とがかなりずれていますね。

さて、むずかしいことになってきました、スポーツやファッション界に、たくさんの外来音(イギリス語などからの)が入ってきました。15ぐらい加わるでしょうか。とくに下線のものなど、ゆれています。

PTA ピーターエー、パーテーと発音する老人は青年より拍数が少ないはずです。言語は常に変化しています。しかしニホン語の拍数は、おどろくべき少なさです。すなわち母音(ボイン)5と、子音(シイン)16との組み合わせ110くらいと、つまる音とはねる音です。

音節数では中国語が約400、イギリス語は3,000以上。

こどものころ、野球のファーストをホワスト、ファウルをハアルとっていたのを思うと隔世の感。